【岐阜女子大学】メタデータ項目と記述内容

メタデータ項目	メタデータ記述欄
ID	
表題名	沖縄の怖い話
資料名	『七色ムーティー』/真玉橋遺構
内容分類	郷土・歴史
索引語	豊見城、国場川、真玉橋、人柱、七色の元結、七色ムーティー、ユタ
	【真玉橋(まだんばし)の歴史】 真玉橋は1522年に首里城と那覇港、那覇の防御を目的として、第二尚氏第 三代国王尚真の時代に国場川に架けられた橋で、琉球王府時代には首里と島 尻地方を結ぶ交通の要でもあったが、川の氾濫や沖縄戦で何度も破損、破壊 が繰り返された。 現在、真玉橋は「真玉橋遺構」という名称で豊見城市有形文化財(建造物) (指定日:2006年2月22日)に指定されており、3基が現地展示され、そ
説明	れぞれに説明板が設置されている。 真玉橋は1707年に木橋から石橋への改築工事が開始され(翌年完成)、1809年の川の氾濫により、世寄橋が破損したために仮の木橋が架けられた。その後も大雨による氾濫で再び破壊されたため、1836年に世寄橋を改築し、その北側に新たに世済橋を築き、工事は翌年に終了したといわれている。 これらの改修工事を伝える記録として、1837年に建てられた『重修真玉橋碑文』(豊見城市有形文化財(歴史資料)指定日:1995年3月29日)がある(碑文裏面には改修工事費用や人夫数などが記されている)。
	真玉橋は曲線の5つのアーチが連なり、脚部には川の水圧を弱めるためのスーチリー(潮切り)が設けられるなど、構造的にも景観的にも沖縄独特の石造文化を代表する橋といわれている。しかし1945年沖縄戦で破壊された。
	1996年、戦後つくられた橋の改修工事に伴う発掘調査により、戦前の真玉橋が豊見城市側と那覇市側の双方で発見され、当時の石工技術の高さを見て取ることができ、貴重な文化遺産としての価値が認識された。
	このようなことから後世への継承と活用のため、1997年「真玉橋の石橋遺構現地保存推進協議会」が発足し、保存に向けた住民運動がおこった。その後、学識経験者等で構成される「真玉橋検討委員会」が発足し、真玉橋の保存方法について議論された。結果、豊見城市側の橋は一部埋め戻して保存、一部移設して保存という二つの保存方法が決定した。 改修工事を記念して建てられた「重修真玉橋碑文」も沖縄戦によって破壊されたが、1980年(昭和55)、真玉橋自治会により現公民館前に復元されて
	ID 表題名 資料名 内容分類 索引語

		いる。 (参考:真玉橋脇の豊見城市指定有形文化財の説明板/那覇市観光資源データベース、
		https://www.naha-contentsdb.jp/spot/472, [アクセス 2023/11/03])
7	形式	静止画(jpg)
8	氏名	撮影者:高見鈴乃
9	時代・年	撮影日:2023/09/16
10	地域・場所	沖縄県豊見城市真玉橋
11	利用条件	表示 4.0 国際 (CC BY 4.0)で提供
1 2	関連資料 1	なし
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	なし
15	登録日	2023/11/03
16	登録者	高見鈴乃
17	ファクトデータ	
18	*特色	【真玉橋にまつわる怖い話『七色ムーティー』】 当時、木で造られた真玉橋は、大雨のたびに洪水で流されていた。そのため、1707年、尚貞王の時代に丈夫な石で造り替えることになった。だが、建設中に大雨が降ると造りかけの橋が流され工事はなかなか進まなかった。困り果てた役人が、ユタ(民間霊媒師)をたずねると、「完成させたければ、子年生まれで七色の元結(七色ムーティー)をした女性を人柱にすることだ。」と告げられた。役人は告げられた女性をいたるところで探したが、条件にあった女性は見つけられなかった。ある日、そのユタも子年生まれであることが役人の耳に入ったため、再びユタを尋ねると、ユタの元結が七色に輝いていた。ユタは「誰かが私を陥れようとしている」と訴えたが、聞き入れられず人柱として埋められてしまった。(参考:豊見城市商工会とみぐすく、豊見城の民話「真玉橋の人柱伝説 ― 七色ムーティー」、http://www.tomi-shoko.or.jp/tomi_minwa,[アクセス2023/11/03])*諸説あり

19	*活用支援	
2 0	* 利用分野	教育、生涯学習、地域学習、観光
2 1	*改善結果	
2 2	*処理プロセス	
2 3	*関連資料 2	